



サカタのタネ 労働組合 様

■組合プロフィール

組合所在地: 〒224-0041
神奈川県横浜市都筑区
仲町台2-7-1
組 合 員 数: 約500名【2020年8月現在】

■活動内容

株式会社サカタのタネの労働組合として、今年で52期を迎え、組合員の労働条件の維持・向上や、職場の環境改善などを目的に、日々活動を行っています。また、全国の組合員の親睦を図り、労働意欲の向上にも貢献しています。



サカタのタネ 労働組合
選挙管理委員長 藤田 杏奈 氏

労働組合の選挙・投票を効率化し、選挙コストの約50%削減と組合員の負荷軽減を同時に実現。

課 題

- ・選挙管理委員や代議員の負担が大きい。
- ・有権者(組合員)に投票しやすい環境を提供したい。
- ・選挙実施に関わるコストを見直したい。

効 果

- ・選挙準備の簡素化、開票・集計作業の自動化で負担を軽減。
- ・時間・場所を問わず、パソコン、スマホで投票が可能に。
- ・ペーパーレス化により郵送費や人件費などを大きく削減。

【背景】選挙の準備や投票の催促など、業務時間外に行うさまざまな活動が組合員の負担に

2019年に同組合の選挙管理委員長に就任した藤田杏奈氏は、i-Vote導入の背景について「わたしの就任前の話になりますが、紙の投票用紙による選挙では、組合本部で保管している鍵付きの投票箱や投票用紙を、選挙の度に全国十数カ所にある各拠点の代議員に送付する手間や費用に頭を悩ませていたそうです。しかも代議員は、投票箱の管理だけでなく、投票状況をチェックして未投票の組合員に声を掛けて投票を促すなど、投票準備から集計までのさまざまな作業が大きな負担となっていることから、なんとか解消できないかという声が上がっていました。」

一方、有権者である組合員にとっても、代議員と会社の部署が異なる場合は、代議員のいる建物やフロアに投票のためだけに出勤しなければならず、また、営業担当者は、顧客である農家との商談で広いエリアを一日中飛び回り、出社できない日も多いため、投票そのものが難しいという問題もありました。

「そもそも組合活動は、昼休みや就業後などの業務時間外に行うことが求められているため、選挙・投票の度に発生する労力を少しでも軽減できないかという思いを、皆さん持っていたようです」(藤田氏)。

【選定・導入】コスト削減や作業負荷軽減の効果を自分たちで試算して、i-Voteの導入を決断

そうした課題を解決するために、同組合が目をつけたシステムがi-Voteです。

「前任者より、コストの削減や作業負荷の軽減については、自分たちで試算して、納得できる数字が出てきたことが大きなポイントになったと聞いています。また、MECの担当者には、当組合の選挙の方法や課題を十分に理解してもらえたうえで、現状に沿った形の最善策の提示、

および使いやすさを考慮したカスタマイズもしてもらったようです」
こうして2018年5月にi-Voteを導入。翌年、選挙管理委員長に就任した藤田氏は、業務の引き継ぎに不安は感じなかったと語ります。「前任者が用意してくれた選挙管理業務の一覧を見ながら、いつどのようなことをやればいいのかを引き継いだのですが、選挙・投票に関する一連の作業は、i-Voteの管理画面から簡単に行うことができましたし、分からないことがあってもMECに相談できたので、特に戸惑うようなこともありませんでした」

【運用】コロナ禍のなかでトラブルなく投票が実現でき、i-Vote導入を決断した前任者に感謝

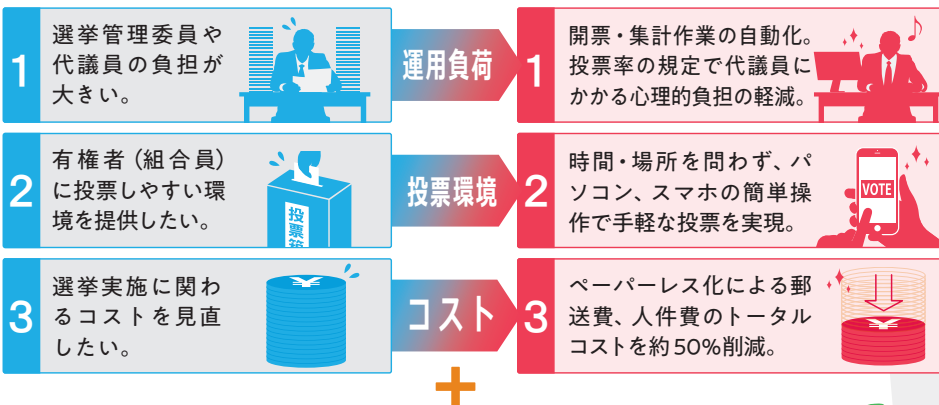
とはいえ、i-Voteを導入して3年目となる2020年度は、例年とは異なる対応が必要となりました。

毎年5月に、i-Voteで実施している「執行委員・代議員選挙」に加え、労働組合規約の一部を改訂することになったため「組合規定改訂承認投票」も併せて行うことになったのです。さらに6月には、毎年開催している組合総会が、新型コロナウイルスの流行により中止となったことで、総会時に直接投票を行っている「三役承認・会計監査選出選挙、予算案承認投票」も行えなくなり、i-Voteで実施することになりました。

しかも、いわゆるコロナ禍のなか、会社側がリモートワークを取り入れて出社が制限されたことで、組合員の連携や連絡にも支障が生じました。当然ながら、選挙管理委員会の活動も普段どおり行うことはできません。

「家族の都合で、わたしは大阪で在宅勤務をするようになりましたが、選挙管理委員長としての作業はすべて大阪からパソコン上で行うことができました。i-Voteのおかげで、作業のほとんどをわたし一人で回すことができ、トラブルもなく選挙・投票を実施できたのは、3年前にi-Voteを導入した前任者たちの先見の明のおかげです。本当に感謝しありませんでした」(藤田氏)。

導入前の課題



導入後の効果

運用サポート

電子投票の仕組みの提供はもちろん、投票内容の変更に合わせた柔軟な対応など、お客様のニーズに合わせたサポートを行い、選挙管理者の皆様にご安心をご提供します。

【効果】コスト削減だけでなく、運営側や利用者側にもさまざまなメリットが

働き方に仕事と生活の調和が求められるなかで、組合活動についても一定の配慮が必要になっていますが、同組合では、i-Voteを導入したことで、コストの削減だけでなく、選挙管理委員会や代議員の負担を大きく減らすことができました。

・選挙・投票のためのコストを削減

投票箱や投票用紙を各拠点に送付する必要がなくなったため、郵送費の節約と併せて、選挙準備にかかる人件費の削減を含めると紙の選挙のころに比べてコストは約50%削減されました。

・投票用紙の配布・開票・集計などの各種作業の自動化

投票用紙の配布、開票・集計といった手作業の多くが自動化され、選挙管理委員会では事前に有権者のチェックとリスト作成と、選挙期間中の催促メールの送付さえ行えば、あとはi-Voteの処理に任せることができました。

・投票率の規定により代議員にかかっていた作業・心理的な負担の軽減

「3分の2以上の組合員の投票が必要」という規約があるため、紙の選挙の際には、各拠点の代議員が一人ひとりに声を掛けて投票を促していましたが、i-Voteでは未投票者に催促メールを一斉に送付でき、個々に声を掛ける必要がなくなりました。またi-Vote上でリアルタイムに投票率を確認できるため、これまで投票期間中に感じていた心理的不安も大きく軽減されました。

・手軽な投票を実現

組合員は昼休みや就業時間後に、仕事で使っているパソコンやスマホから短時間で手軽に投票できます。しかも、画面の構成が分かりやすく、直感的に操作ができるため、選挙管理委員会への操作に関する問い合わせはほとんどありませんでした。

・投票内容の変更に合わせた柔軟な対応

2020年度は「執行委員・代議員選挙」に加え、「組合規定改訂承認投票」を実施しましたが、MECのアドバイスにより、基本的な設定を変更することなく投票を実施することができました。

「i-Voteの導入後は、選挙で困ることが起きてもMECに相談して解決してもらっています。例えば『組合規定改訂承認投票』を行うことになったときも、MECに相談したところ、立候補者の氏名の代わりに『組合規定の改訂投票』と入れれば、現行の仕組みをそのまま利用できるというアドバイスをいただき、とても助かりました。また、毎年のように使いやすさが向上していることも、ポイントが高いですね。例えば、催促メール機能は、管理画面で『未投票者』のボタンをクリックするだけで一斉に送信できるようになりました。もう紙の投票に戻ることはできませんね」(藤田氏)。

【期待】業務時間外に活動せざるえない労働組合にとって、i-Voteは欠かせないツール

藤田氏は、有権者そして管理者として関わってきた電子選挙の印象を、次のように振り返ります。「2018年にi-Voteを導入した際に、わたしも初めて電子選挙を体験しました。そのときは有権者として投票し、ずいぶん便利な世の中になったなと感じただけでしたが、その後、管理者としてi-Voteを使う側になって、パスワード管理などを含め、慎重な運用が大切なこともよく分かりました。今後、電子投票がどこまで広がっていくのかは分かりませんが、少なくとも、業務時間外に活動しなければならないという制約のある労働組合にとっては、電子投票に移行しない手はないと思います」

さらに今後のi-Voteの利用については「わたしたちが使い始めた3年間だけでもi-Voteの進化は続いていて、ますます使いやすくなっています。サポートについても、いつでも困ったときには相談にのってもらえるという安心感がありますから、今後も使い続けていくつもりです」と語っていただきました。

Imagine your needs 真のニーズを想像し新たな価値を創造する

株式会社エム・イー・シー <http://mec-jp.com/>

〒106-0045 東京都港区麻布十番4-6-8 二進ビル2F

お問い合わせ
<https://promote.i-vote.jp.net/>

0800-222-6703

